

表1：1人1日当たりごみ排出量（R2年度）

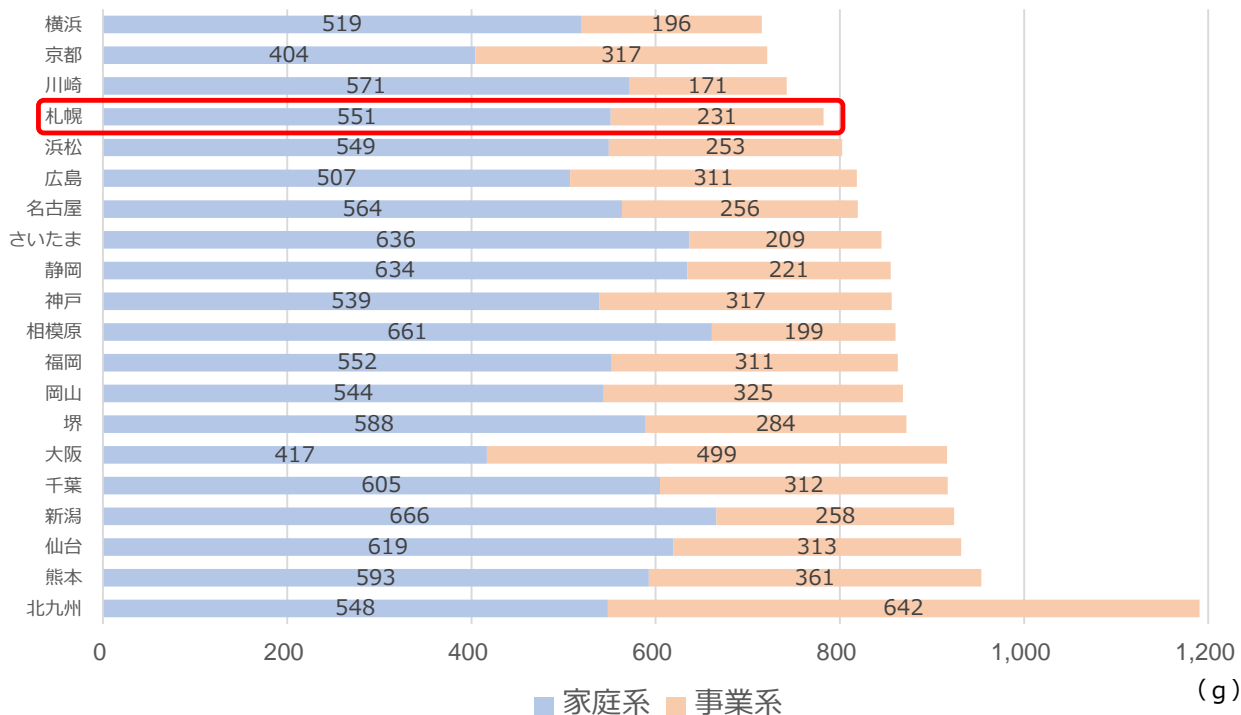
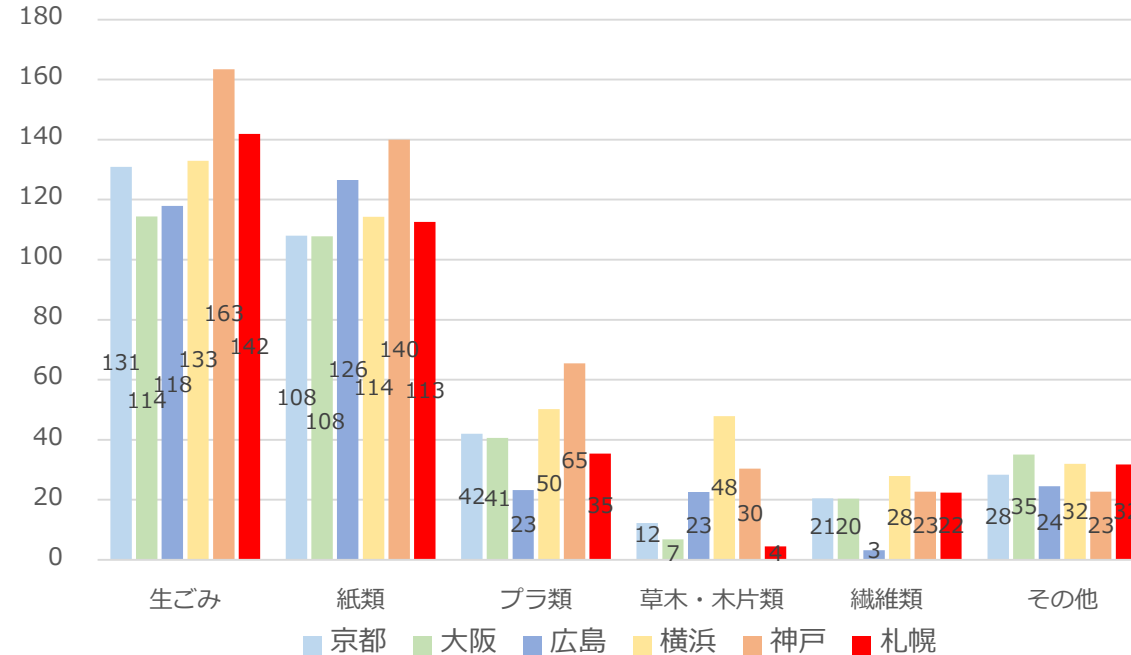
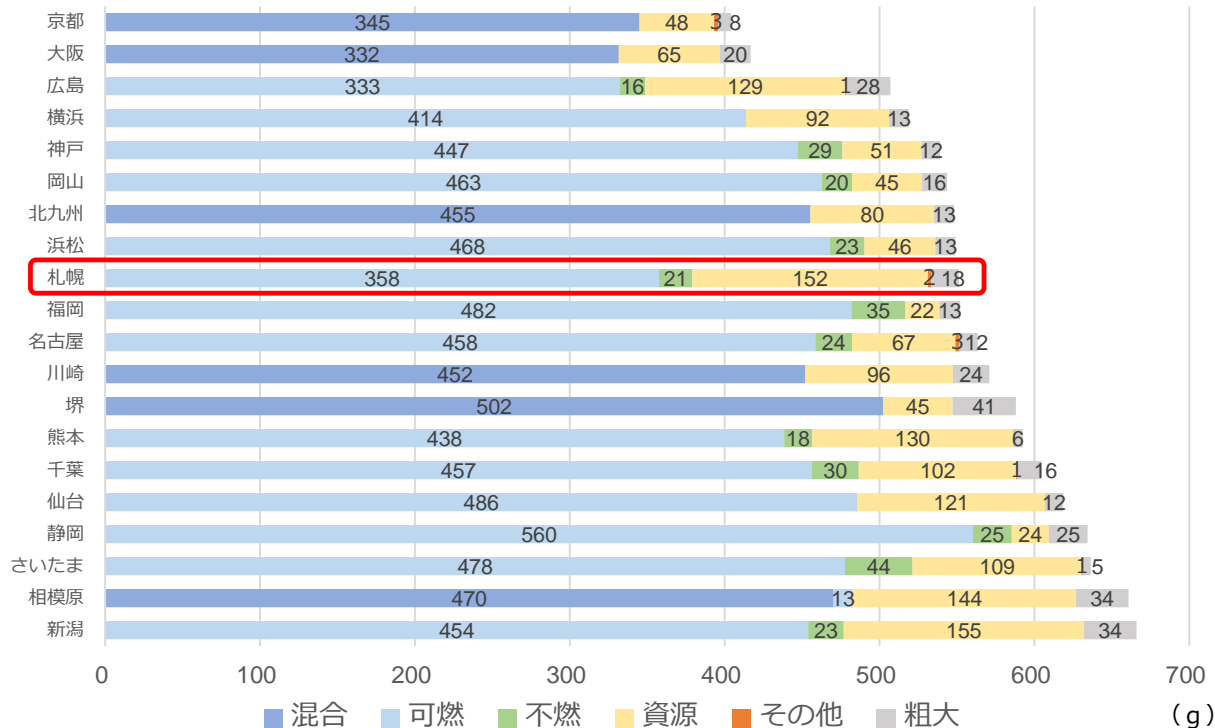


表3：可燃・普通ごみの組成ごとの1人1日当たり排出量比較（R1年度）



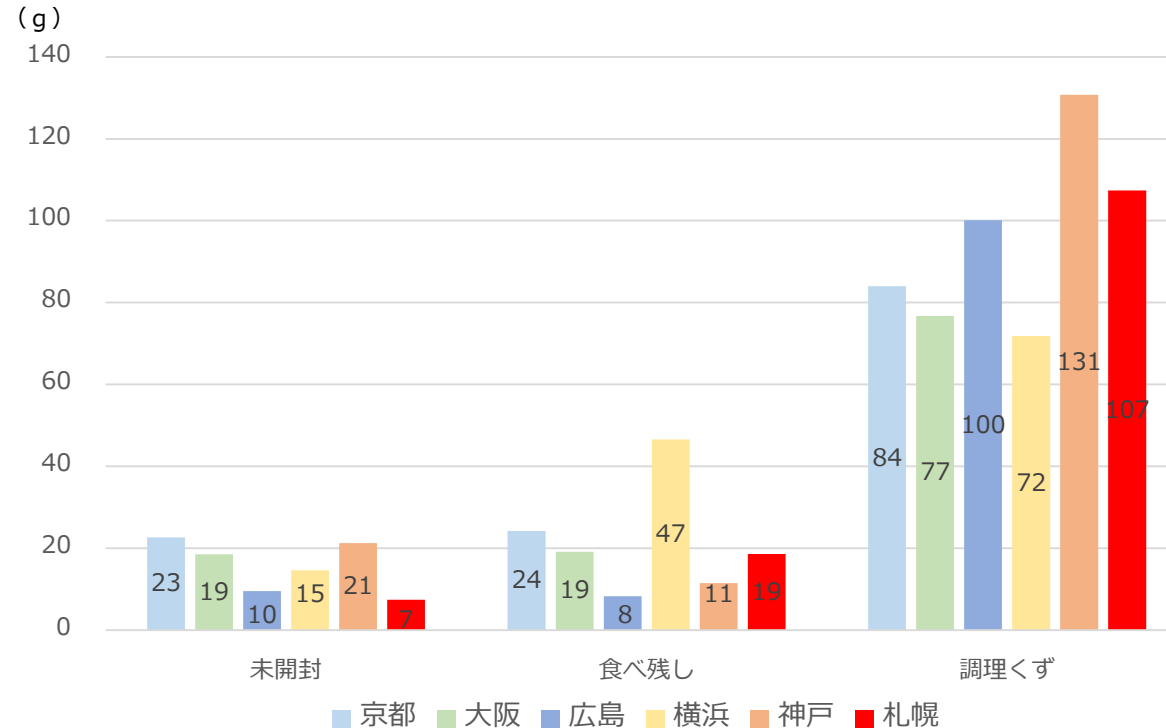
※ 神戸市のみR1年度の組成割合が公表されていないため、直近で把握可能なH30年度の割合を用いて算出している。  
 ※ 京都市・大阪市は札幌市における「燃やせないごみ」の一部も可燃・普通ごみとして収集している。

表2：1人1日当たりごみ排出量（家庭系内訳：R2年度）



※ 集計上、混合=可燃+不燃としている市がある（濃い青色）

表4：生ごみに含まれる食品ロス量等の1人1日当たり排出量比較（R1年度）



※ 神戸市のみR1年度の組成割合が公表されていないため、直近で把握可能なH28年度の割合を用いて算出している。

※ 表1・2は、環境省 令和2年度一般廃棄物処理実態調査結果より札幌市が作成（集団回収分はごみ排出量に含めていない）。  
 ※ 表3・4は、表2における家庭系のごみ排出量が少ない上位5都市のホームページの公表資料等から札幌市が作成。組成割合×ごみ量を基に算出している。

# 一人一日当たり家庭ごみ排出量が少ない政令市の主な事業について

	京都	大阪	広島	横浜	神戸
生ごみ	<p>○コミュニティ単位で共同利用するたい肥化装置を設置</p> <p>○生ごみ・落ち葉等のたい肥化を行う町内会等の団体に活動費用を一部助成</p>			<p>○土壌混合法※を実施する5世帯以上の団体に支援物品を支給</p> <p>※ 生ごみと土を少しずつ混ぜてたい肥化する方法。</p>	
食品ロス	<p>○地域学習会を開催し、食品ロス削減啓発オリジナルカードゲームの活用等による啓発</p> <p>○京都市内の大学生がチームを作ってSNSに食品ロスに関する投稿をし、いいね数等に応じたポイントを競わせ、優勝チームを表彰</p> <p>○「エレンマッカーサー財団」※の食品ロス削減の取組を促進するフードイニシアチブに参画し、株式会社Mizkan Holdingsと連携した取組を実施</p> <p>○フードバンク団体等の食品ロス削減に資する取組に対し、必要経費を一部助成</p> <p>※ 企業・政府・研究機関が連携し、循環型経済を推進する国際団体</p>	<p>○区民まつり、ガレージセールなどのイベント、小学校の体験学習等での食品ロスの取組を実施</p> <p>○食品ロスを減らす料理教室を開催</p> <p>○フードドライブの実施事業者と協定を締結し、フードドライブを推進</p> <p>○フードドライブの実施場所、実施事業者の拡大を図る</p>	<p>○「ごみ減らそうデー」（年8回）を設定し、スーパー店頭でごみ減量・リサイクルの取組を呼びかけ</p> <p>○市内の大学・高校と協働し、学生にエコクッキングレシピの作成を依頼し、市HP等に掲載するとともに、動画を作成して公開。さらに、学生等が講師となり、若い世代を対象としたエコクッキング教室を公民館等で開催</p> <p>○市教委と連携し、中学校で家庭科の授業の一環として食品ロス削減をテーマに環境学習を実施</p>	<p>○国際機関や事業者、団体と連携し、食品ロス削減を働きかけるイベントの開催</p> <p>○フードバンク・ドライブ団体名をホームページへ掲載、団体への物品の貸出</p> <p>○国際機関等と連携したオンラインイベントの開催</p> <p>○横浜メディアビジネス総合研究所（新聞社・テレビ局で組織）との市民協働事業による食品ロス削減の啓発</p>	<p>○食品ロスダイアリーアプリの記録を推奨</p> <p>○神戸に縁のあるホテルのシェフ、食品関連企業、高校生等が残りもの野菜のスープレシピを作成、レシピ集をホームページ掲載・スーパー等で配布</p> <p>○市オリジナル作成「食品ロスNOかるた」の読み札を公募し、完成したかるたのPDFデータをホームページに掲載</p> <p>○スーパー等の事業者が実施するフードライブ情報を市HPで広報</p>
紙類・衣類	<p>○衣類品自主回収推奨店（H&amp;M,ユニクロ等）・給水スポット・マイボトル推奨店のMAPを作成し、HP掲載・リーフレット配布により市民・観光客を含めて啓発</p>	<p>○古紙・衣類の収集は、大阪市が収集を行うのと同様に、地域と契約をした再生資源事業者が収集するコミュニティ回収を実施</p> <p>○再生資源事業者に対し、基準価格を市況価格が下回る品目のみ、収集量に応じて奨励金を支給</p>	<p>○家庭系紙ごみの出し方マニュアルを市HP・啓発チラシに掲載</p> <p>○資源ごみ（紙類）について、選別施設等関係者と協議し、対象拡大を検討</p>	<p>○集団資源回収にて雑がみを含めた紙類を回収</p>	<p>○雑がみ分別のコツのチラシをHP掲載</p> <p>○集団資源回収にて雑がみを含めた紙類を回収</p> <p>○市運営のリサイクル工房における古本、育児・子供用品の拠点回収・提供</p>
プラスチック	<p>○衣類品自主回収推奨店（H&amp;M,ユニクロ等）・給水スポット・マイボトル推奨店のMAPを作成し、HP掲載・リーフレット配布により市民・観光客を含めて啓発（再掲）</p> <p>○市有施設に水道直結式の「給水スポット」を設置</p> <p>○マイボトル推奨店とともに情報発信</p> <p>○地域イベントの際にも水道直結式の給水器を設置し、使い捨て飲料容器の削減を目指す</p> <p>○ペットボトルリサイクル（ボトルtoボトル）事業の推進</p>	<p>○「地域、事業者との連携による新たなペットボトル回収・リサイクルシステム」の実施</p>		<p>○収集車でのアナウンスなどを活用して、プラごみの発生抑制、分別・リサイクルに関する情報発信</p> <p>○ペットボトル再生材を使用した商品を開発・販売する事業者など、先進的な取組事例についてSNS等を通じ情報発信</p> <p>○プラスチック代替素材等を使用した「啓発物品」の事例集を活用し、市役所内で積極的に利用</p> <p>○「マイボトルスポット」を周知する等、マイボトルを活用しやすいまちづくりを推進</p>	<p>○マイボトルが利用可能な店舗のMAPをインターネット上で公開</p> <p>○オリジナルアプリ「イイことぐるぐる」にて、マイボトル利用等のエコアクションを行うごとにアプリ内でポイントが貯まり、WAONポイントなどに交換可能</p> <p>○商店街へエコバッグと容器を持参し、使い捨てプラスチックを使わずに買い物を行い、生ごみをなるべく出さない料理教室を行う</p> <p>○プラスチックの品目別回収に向けた調査及びモデル実施</p> <p>○地域拠点におけるプラスチック資源の回収ステーションの拡大</p> <p>○つめかえパックリサイクルプロジェクトの推進</p>
その他	<p>○「しまつのこころ条例」を定め、市民・事業者のごみ減量に係る義務（実施義務・努力義務）を定めている</p> <p>○南部クリーンセンターに整備した環境学習施設「さすてな京都」にて、ライフステージに応じた学習プログラムを提供</p>	<p>○区ごとにごみ減量目標を設定し、区役所等の施設に減量目標パネルを掲出</p> <p>○各区にてガレージセールを企画・運営</p> <p>○環境事業センターにおいて、マタニティウェアやベビー服を回収・展示・提供</p> <p>○環境事業センター、区役所などの公共施設内に月1～2回「ごみ減量・3R啓発相談コーナー」を設置</p>	<p>○ごみ減量・リサイクルに係る啓発チラシを各戸配布するほか、区役所や公民館等で希望者に配布</p> <p>○環境イベントに出展し、パネル展示等で普及啓発するほか、大学・関係団体と連携しフードドライブを実施</p> <p>○広島市LINE公式アカウントにて、ごみ分別自動案内チャットボットやごみ収集日のプッシュ通知が利用可能</p>	<p>○焼却工場において、啓発活動に協力いただいている市民ボランティア「工場サポーター」の取組を、全工場に拡大</p> <p>○横浜DeNAベイスターズと協働</p> <p>○ごみ分別システム「Mictionary」の提供</p> <p>○イーオ（ごみ分別案内（チャットボット））の提供</p> <p>○スマホアプリによる情報提供（分別アプリ・分別ゲーム）</p>	<p>○「家財の片付けサポート」事業の普及</p> <p>○クリーンステーション（ごみステーション）看板を活用した情報提供</p> <p>○地域別意見交換会の開催</p> <p>○各年代に向けた環境学習の機会の提供</p> <p>○市民・事業者等と連携した環境学習プログラムの提供</p> <p>○クリーンセンター、リサイクル工房、環境関連施設での学習プログラムの充実</p> <p>○ふれあいごみスクールの体験プログラムの提供、リサイクル体験学習等の充実</p>

※ 札幌市で類似の事業を行っていない事業で主なものを掲載。各都市の一般廃棄物処理基本計画・ホームページ掲載内容等から札幌市が作成。